



④発信する ⑤追究する ⑥粘り強く ⑦つながる ⑧思いや願いを実現しようとする ⑨課題解決する

行事は子どもが大きく伸びるチャンス

校長 許斐 真也

秋らしい天気が続き、子どもたちが深まった秋を満喫する場面をよく目にします。拾った沢山のどんぐりをビニル袋に入れ、大事そうに持って登校する子、摘んだ秋の花を登校時に見守りをしている職員に少し恥ずかしそうに渡す子、様々です。また先月には、5年生が元気村の皆さんのご指導の下で稲刈りを行いました。網掛けのタイミングが良かったようで、スズメにさほど食べられることなく収穫できたようです。

いよいよ明日、HSW（初音っ子スポーツウエーブ）2023を実施します。ここまで準備、練習にあたり、保護者の皆様にはご理解ご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。明日はおやじの会、地域の皆様にもお世話になります。感染症に対する心配が払拭しきれない中ではありますが、今年度は全校児童が一堂に会した形で実施します。4年ぶりに、または初めて、生で全学年の取組を目の当たりにした子どもたちはいろいろなことを考え、感じることでしょう。HSWで終わらせることなくその後の生活にぜひつなげていってほしいです。

HSWはもちろん体育的な学びが中心ですが、そのプロセスでそれ以外にも沢山のことを学びます。自分の頑張りや成功は自信や自己肯定感の高まりにつながります。友だちとの協力はよいつながりを生み、学校生活を豊かなものにすると同時にその先の協働にも発展していきます。今年度採り入れたペア学年での競技は異年齢の友だちに対する理解や思いやりが期待できます。高学年は競技や演技以外にも、担当した系の活動を行うことでやりがいや達成感などを感じることができると思います。代表としての出番があった子どもは、特にドキドキしながらの取組であり、それを立派にやり遂げることで一層自信を深めると思います。ご家族からの感想、お褒めの言葉があれば、それは一層効果を発揮します。

去る21日には、初音が丘地区センターのお祭りで太鼓クラブの子どもたちがオープニングアクトとしてステージで演奏しました。学校と異なり、地域での発表ということもあり、「緊張する」「大丈夫かなあ」などと心配する子どもももちろんいましたが、立派に発表することができました。この「ドキドキ体験」は子どものうちから経験させたいことのひとつです。緊張を乗り越えてやり遂げることも行事の大切なねらいのひとつです。なお、この発表にあたりましては保土ヶ谷区の「NPO法人 元気な地域人の会」様より、助成金を頂戴し、物品購入に充てさせていただきました。改めて、学校、子どもを支え応援してくださっている皆様に感謝申し上げます。

先の話になりますが、12月16日（土）には「学びの報告会」として、子どもたちがこれまで学習したことを発表する機会を計画しています。今年度も半分以上が過ぎ、子どもがこれまでに身に付けてきた力をさらに伸ばしていくことを願っています。引き続きご理解、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。